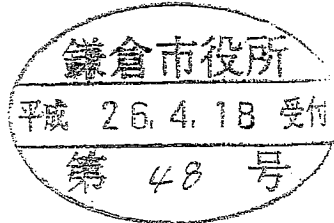


相互提案協働事業 報告書

平成26年 4月 18日

(宛先) 鎌倉市長



住所 [Redacted]
 郵便番号 [Redacted]
 団体名 かまくら福祉・教育ネット
 代表者氏名 江副 幸子

平成25年度事業報告会に先立ち、協働事業の実施状況・実施結果について、下記のとおり報告します。

事業名	障害者就労支援員（ジョブサポーター）養成・派遣事業
事業概要	障害者が安心して企業等で働き続けられるために、ボランティアによる障害者就労支援員（ジョブサポーター）を養成し、企業等に派遣して就労定着支援活動を実施する。 そのためにジョブサポーター養成講座を開催し、確保し、障害者就労支援事業所と連携して障害者就労企業との連絡・調整し、障害者への助言・見守りなどを行うサポートを通じて、就労定着支援を行う。
市担当課	障害者福祉課
事業実施期間 （継続中の事業については、継続に○をつける）	開始 平成23年 4月 1日 ~ 継続 終了 平成26年3月31日
協働の形態	市民活動団体提案事業
事業費	492,000 円

<p>事業目的の達成 (継続中の事業については、現時点で判断する)</p>	<p><達成できた点></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 23年度に養成したジョブサポーターを2人1組で、鎌倉市民で企業に就労している障害者7名のサポートを延べ37回行った。 ② 障害者の就労の実際について理解を深めるために、先進的な取り組みをしている自治体や企業への視察や研修に参加した。 ③ 市と連携し、鎌倉養護学校生の実習のサポートを行った。 ④ 障害者雇用の現状と課題等を市民に啓発・共有するため、『みんな笑顔で働こう～障害者就労支援シンポジウム～』を開催した。 ⑤ ジョブサポーターが支援した利用者と交流会を行い意見交換した ⑥ ジョブサポーターの活動状況について、サポーター相互の情報の共有を図るため、活動報告会を4回行った。 <p><達成できなかった点></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者数(対象となる障害者)が予定通り伸びず、企業への派遣活動も計画より縮小したものとなった。
<p>成果・効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 障害者就労支援センターや就労移行支援事業所のジョブコーチと連携して、その業務の一部である就労後の定着支援業務をサポートするために障害者が就労する企業に訪問し、きめ細かな支援を行った。その結果、企業にとっては障害者についての理解が深まり、指導や職場環境の改善がなされた。また障害者にとっては、本人の職場で求める事柄を引出し職場に伝えることにより、労働意欲が増し就労継続につながった。支える人として頼られる存在になっている。 ② シンポジウムでは、障害者雇用を支援する関係機関等の周知をすることで就労を進める上での安心感と、共生社会を構築するために必要な、一緒に働くことの意義や効果を市民や企業と共有した。 ③ 福祉とのつながりが薄い企業就労者のセイフティーネット構築の足掛かりとなった。
<p>課題・問題点 (解決・改善の方法についても記入)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 対象者それぞれの状況に応じた支援をする必要があるため、企業への定着支援に加え生活支援の必要性を強く感じた。支援の範囲を再検討する必要がある。 ② 就労支援事業所とのつながりを、県の行政単位を超えて行う必要がある。 ③ 各サポーターの技能の向上・均質化 ④ 養護学校在学中から実習等で関わりを深める、養護学校と関係強化
<p>今後の展望</p>	<p>モデル事業としてボランティアにより障害者の働く企業への派遣を行ったことで、利用者と企業のニーズを確認し、双方にとって必要な事業であることを認識しました。平成26年度からは市が事業委託した事業所がスタッフを確保し、モデル事業で養成したジョブサポーターを活用し、障害者の就労定着支援を継続することになりました。今まで以上に市と隣接する就労支援事業所との連携を深め、支援の幅を広げ、役割を果たしていくつもりです。</p>

添付資料

平成25年度ジョブサポーター事業活動実施状況報告書

平成25年度収支決算書

(1) 平成 24 年度鎌倉市協働事業報告会

平成 25 年 5 月 20 日の事業報告会で 24 年度の活動を報告

(2) ジョブサポーター活動報告 (平成 25 年 4 月～26 年 3 月) 延べ 37 回

① (株)ラビー 2 名 8 回

② 鎌倉プライエムきしろ 1 名 8 回

③ (株)テクノ・トランス 1 名 2 回

④ 鎌倉市役所 実習 3 名 打ち合わせ 7 回 支援 12 回

活動に関わったジョブサポーター 6 名 ・ 支援対象者 7 名

(3) 鎌倉市雇用報奨金対象企業訪問 6 月 7 日

鎌倉市内で知的障害者を雇用する企業 6 社に訪問し、ジョブサポーター事業の周知をした。

(4) 先進都市視察 (千葉県富里町)

千葉県富里市自立支援協議会で行われている『ぶれジョブ』視察

平成 25 年 7 月 31 日 参加者 障害者福祉課職員 1 名 事務局 5 名

①富里市自立支援協議会による『ぶれジョブ』概要としくみの説明

倉敷で、「一人ひとりが地域の人とかかわれる活動」として始まった活動を導入。小学 5 年生以上の知的障害を持った子供が、ボランティアと協力事業所に、週 1 回 1 時間・半年 1 クールで仕事をさせてもらう活動。今年度から社協の自立支援協議会にぶれジョブ部会が出来た。

現在の活動人数 利用者 6 名・サポーター延べ 6 名 協力事業所数 6 箇所

②現地視察

協力事業所 (幼稚園) で、中学 2 年生 (特別支援教室在籍) による清掃の様子を見学させていただいた。

③ジョブサポーターの感想

人材育成の観点から、鎌倉市でも必要な事業だと思う。

(5) 企業見学会

株式会社ばどシップ 11 月 11 日

参加者 障害者福祉課職員 1 名・ジョブサポーター 6 名

フリーペーパー・WEB サイトなど様々なメディア・サービスでお客様の商売繁盛をサポートする『ばど』の特例子会社

平成 21 年 3 月設立、社員数 12 名うち障害者 7 名を雇用

事業内容は社内メール便配送、販売促進物作成・加工・スタンプ押印・DM などの印刷・封入・封緘・発送・各種資料セットアップ・廃棄書類のシュレッダー処理伝票整理など

ジョブサポーターの感想

- ・事務作業を構造化することで障害者の職域を広げていっていることに敬意を感じる。
- ・とにかく雇用する、から始まったと伺った。とにかくやってみなければ始まらない。

(6) みんな笑顔で働こう～障害者就労支援シンポジウム～ 報告詳細別紙

(7) JS支援対象者とジョブサポーター交流 みかん狩り実施

12月14日(土) 参加者 10名

二宮みかん園でみかん狩りと、支援対象者の近況等確認するなど、交流を深めた。

(8) JS活動報告会 4回実施 概要別紙

7月19日・10月25日・1月11日・3月20日

(9) 研修会・講座

①岩戸養護学校夏季公開講座

8月2日 「企業と語ろう in YOKOSUKA」～安心して働くために

講師 NPO 法人障害者雇用部会理事長 土師 修司氏

特例子会社社長 6名、障害者雇用部会役員 3名

事務局参加

②横浜・三浦障害保険福祉圏域 就労支援研修会

9月27日 「障害者雇用の現状について」「スシローの障害者雇用の取り組み」

講師 神奈川県障害者就労相談センター所長 大友 英司氏

株式会社 あきんどスシロー 荒木 慶氏

事務局参加

③鎌倉市発達支援室主催 発達障害等啓発講演会

11月15日 「大人になって自立するために今のうちから考えておくこと、
やっておくべきこと～就労を見据えて～」

講師 宇都宮大学 教育学部教授 梅永 雄二氏

事務局参加

④社会福祉法人湘南の尻研修会

平成26年2月12日 「発達障がいの理解と就労支援」について

事務局 参加

⑤「Jネットかしおぺあ」事例検討会に参加

横浜戸塚就労支援センターで実施している勉強会。

1. 7月9日 事例検討会 ジョブサポーター4名参加。

テーマ「特例子会社における(当事者同士の)社内恋愛への対応」

2. 11月13日 定例会 事務局参加

勉強会「発達障害の本人やその家族の、学校・家庭生活や就労後のトラブル、
および支援」 講師 NOP法人 ブライトネス 衣袋代表

⑥中小企業家同友会全国協議会主催 第17回障害者問題全国交流会 in 神奈川

『共に働き、育ちあう、その素晴らしさを広げよう!』

～知らないから見える壁、知ることでなくなる壁～

平成25年10月24、25日 事務局参加

1. 基調講演(問題提起) 横浜私立大学 影山 摩子弥氏

2. 1～7の分科会に部屋を移し、分科会報告後グループディスカッション

3. 湯浅誠氏の講演 『全員参加型の社会を目指して』

4. 『全員参加型社会を目指すにはどんなことから取り組んでいますか?』

基調講演を受けてグループ討論

ジョブサポーター感想

この場に出席した中小企業の経営者は、普段からリーダーとして経営・社員・地域社会等について、自分の出来る事やこうだったら良い、また思っても出来ないこと、など細やかに自分と対話していると感じました。障がいを持った人の雇用についてもこのような思考の一端で、大変なことはあるかもしれないが力になりたい、背中を押してほしいとの気概がありました。

私たち支援をする側は、奮闘する企業人に支援の存在を知ってもらい、全員参加型社会を作っていけるようますます信用ある働きをすることが必要と感じた。

「相互提案協働事業」
平成25年度収支決算書

平成26年3月31日

科目	金額	備考
<収入> 協働事業市負担金	492,000	
<支出> ボランティア活動費 ボランティア研修費 交通費 通信費 事務費 啓発イベント関連 雑費	97,000 76,000 69,890 11,988 42,066 176,253 18,803	平成25年4月1日～25年3月 述ベ37回 かしおぺあ事例検討会、障害者問題全国交流会 企業訪問1回、富里市ぷれジョブ視察、関係機関訪問 振り込み手数料、切手等 事務用品、事務費 講師・手話通訳謝礼、チラシ・ポスター作成、資料作成 見学会手土産等
合計	492,000	